

インド首相府

国連経済社会理事会におけるモディ首相の国連創立 75 周年に寄せた挨拶

閣下

ご列席の皆様

今年、私達は国際連合設立 75 周年を慶祝しています。これまで国連が人類の発展のために行ってきた、数々の貢献を振り返る機会でもあります。また、今日の世界における国連の役割と関連性を評価し、より良い未来を形成する機会でもあるのです。

閣下

インドは、第二次世界大戦後に国連設立時加盟国、50 カ国のひとつです。国連設立以降、多くの変化がありました。現在、国連には 193 か国が加盟しています。加盟国数の増加に伴い、国連への期待も高まっています。同時に、多国間主義は多くの課題に直面しています。

閣下

加盟当初から、インドは国連の開発事業や経済社会理事会(ECOSOC)を積極的に支援してきました。ECOSOC の初代委員長を務めたのはインド人でした。また、インドは持続可能な開発目標を含む、ECOSOC のアジェンダ形成にも貢献してきました。今日においても、インドは国内における取組を通じ、国連の Agenda2030 と持続可能な開発目標(SDG)の達成に向けた重要な役割を果たしています。また、インドは他の発展途上国が持続可能な開発目標を達成できるよう、支援しています。

閣下

インドには全人類の六分の一にあたる人々が居住しています。私達はインドの重要性、そして責任を強く認識しています。もし、インドが自身の掲げる開発目標を達成できれば、世界の目標達成に大きく貢献することを知っています。そのため、インドは州政府、地方政府、市民社会、コミュニティ、そして国民を巻き込む、『全社会的アプローチ』をとってきました。

インドは、『Sabka Saath, Sabka Vikaas, Sabka Vishwas』、すなわち、『皆の信頼をもって、共に成長を』というモットーを掲げています。このモットーは、誰一人残すことのない開発、という SDG 原則の核心と共鳴しています。栄養、保健教育、電力、住宅へのアクセスなど、私達は包括的なプログラムを実行し、大きな進歩を遂げています。

閣下

去年、私達はインドの父であるマハトマ・ガンジーの生誕 150 周年を、国内 6 万の村々における衛生設備を完全普及事業を通じ、慶祝いたしました。

この5年間で、私達は1億1000万の家庭用トイレを整備し、農村部における衛生設備充足度を38%から100%に大幅改善しました。私達の大規模な意識改革プログラムは、女性に力を与えています。初等教育、中等教育における男女平等を達成しています。また、7000万人近い農村部女性が私達の生計ミッション下に設けられた自助グループに参加しています。これら自助グループに参加している女性たちは、農村部の暮らしや生計の立て方を大きく変えています。100万人以上の女性が地方政府に地域の代表として選出されており、女性の政治参加を先導しています。この6年間で、これまで銀行を利用した事なかった国民向け銀行口座を4億口座を開設しましたが、その内、2億2000万が女性名義の口座です。私達は技術力を活用し、金融包摂性を達成いたしました。この金融包摂性は、国民一人一人に付与された独自の個人番号、銀行口座、そしてモバイル接続という3つの条件を基に、実現したものです。金融包摂性が実現したことにより、私達は7億人以上の国民に対し、1500億ドル以上の給付金を個人の銀行口座に直接振り込むことができました。また、食糧保障プログラムを通じ、8億1300万人の国民に食糧支援を行いました。

私達の、『全国民住宅供給』プログラムは、インドが独立75周年を迎える2022年までに、全国民に対し、安全・安心な住宅を供給することを目指しています。このプログラムでは、多くの国々の世帯数より多い、約4000万軒の住宅が建築される予定です。今日、インドの保健プログラムで世界最大規模である『アユッシュマン・バラット』は、5億人の国民を対象としています。この草の根レベルの保健システムは世界有数の回復率を記録し、インドの新型コロナウイルスとの戦いを支援しています。また、私達は、2025年までに結核を撲滅するという目標達成の途上にあります。他の発展途上国は、インドの開発プログラムの規模や成功、また私達が導入した技術やイノベーション等から、多くを学ぶことが出来るでしょう。このような認識こそが、インドと南半球の発展途上国との開発パートナーシップを支えているのです。

閣下

開発の道を突き進みながらも、私達はこの惑星に対する私達の責任を忘れてはなりません。この数年間、インドは農村部の電化や8000万世帯の貧困家庭に対し環境に優しい調理用燃料を提供し、さらに高エネルギー効率技術を導入するなどし、年間の炭素排出量を3800万トンも削減してきました。さらに、私達は2030年までに450ギガワットの再生可能エネルギーを導入し、2600万ヘクタールの劣化した土地を回復させるという目標を掲げています。インドには、自然と共生するという伝統があります。さらにインドは国内環境の美化を目指し、使い捨てプラスチックの使用を禁止を訴える最大規模のキャンペーンを実施しています。インドが開設を呼び掛けた国際太陽光連盟は、気候変動問題に対するインドの実践的な取り組み例の一つです。同様に、「災害に強いインフラ開発のための連合」は、関連する全ての関係者を集め、包括的な取り組みを行っています。インドは、常に地域のファースト・レスポnder、つまり困難に陥った国に手を差し伸べる友人であると自負しています。地震やサイクロン等のありとあらゆる自然災害や人災に対し、インドは迅速かつ連帯感をもって対応してきました。

新型コロナウイルスと世界の戦いにおいても、インドは150ヶ国以上に対し、医療支援やその他支援を提供しています。インドの近隣諸国を対象とする、SAARC新型コロナウイルス感染症基金の設立も支援いたしました。

閣下

この度の新型コロナウイルス感染症の世界的拡大によって、世界各国の回復力が厳しく試されています。インドでは、政府と社会の取り組みを組み合わせることで、コロナウイルスに対する戦いを、国民的な取り組みとして位置付けました。特に貧困家庭に対し、優先的に給付金を支給しています。また、3000億ドル以上の対策パッケージを発表いたしました。この対策により、経済が復活、近代的なインフラ開発が実現し、技術牽引型システムの構築につながる事でしょう。さらにインドは、グローバル経済と統合された、自立し弾力性のあるインド、『Atmanirbhar Bharat』というビジョンを掲げています。

閣下

インドは、持続的な平和と繁栄の実現は、多国間主義をもって行われるべきであると強く信じています。地球の子供達である私達は、共通の課題や共通の目標に、手を携え取り組まなければなりません。しかし、実際の多国的主義は、国際社会の実像を反映していなければなりません。改革された国連を中心に置く、改革された多国間主義のみが人類の希望を満たすことが出来るのです。今日、私達は国連創立75周年を祝っています。これを機に、世界的な多国間主義の改革を誓おうではありませんか。国連の関連性及び有効性を強化し、新しいタイプの人間中心型グローバル化の基盤を築きましょう。国連は、第2次世界大戦の狂騒から生まれた機関です。今日、パンデミックの猛威は、新たな再生と改革の機会をもたらしています。この機会を逃してはなりません。

閣下

インドはこの重要な時期に、国連安全保障理事会の非常任理事国に再選されました。世界調和を維持し、社会経済の公平性向上、そして自然バランスを維持するという、強い責任感をもって、インドは今後も国連アジェンダ支援を全面的に支持し、その役割を果たしてまいります。

ナマスカール。

ありがとうございました。
